

平成26年度

## 社会福祉法人わかくさ福祉会事業報告書

### 1. 組織

社会福祉法人わかくさ福祉会		
役員会		評議員会 評議員 15名
理事会	監事会	
理事長 1名 理事 6名	監事 3名	

  

緑ヶ丘保育所	デイサービスセンター共楽苑
所長 1名 (岡崎正信)	施設長 1名 (岡崎正興)
主任保育士 1名	通所介護事業 生活相談員 1名
保育士 16名	介護職員 5名
調理員 2名	看護職員 2名 (兼務)
事務員 2名 (山下正)	調理員 3名
嘱託医師 2名	運転手 2名
わかくさ保育園	事務員 1名 (兼務)
園長 1名	パート職員 若干名
主任保育士 1名	訪問介護事業 訪問介護員 2名
保育士 3名	パート職員 若干名
調理員 1名	訪問入浴介護事業 介護職員 2名
事務員 0名	看護職員 1名
嘱託医師 2名	居宅介護支援事業 支援専門員 2名

(注記：氏名のある者は、法人理事を兼務)

### 2. 運営方法

#### (1) 緑ヶ丘保育所

24年度より定員を70名に上げたが、利用希望者も多いことから80名に増やして希望者の入園に応えた。また、法人が吸収合併後、保育目標、職員待遇、実施特別保育等については、すべて従前のおりの運営を行った。また、園児がより楽しく保育が受けられるよう、保育環境特に遊具等の更新・整備を行った。一時・延長・世代間保育に取り組んだ。

#### (2) わかくさ保育園

14年度より定員を30名に戻したが24年度に4月当初15名の入所希望が15名となり、定員を20名に下げ運営してきたが、当面は20名定員

を維持していく。大きな流れとして、少子化傾向は否めなく、1・2年はこの定員を維持できる見通しで対処し、29年度以降に緑ヶ丘保育所の分園としての存続を予定している。

一時的保育・土曜日午後保育・延長保育・学童保育には少子化対策と将来の地域保持と保育所運営のため積極的に取り組んできた。また、従来からの特別保育事業の世代間交流・異年齢児交流・育児講座・郷土芸能伝承活動事業にも地域の協力を得ながら実施することができた。

### (3) デイサービスセンター共楽苑

介護保険導入15年目ということであるが、24年度の法改正により運営面では訪問介護・通所介護・居宅介護支援事業を中心に事業者いじめともとれる様相が顕著である。介護予防についても何とか運営してきたが、26年度も収入面では相当の覚悟をして運営することとなった。従って、益田市に対しては運営費補助の一層の充実を働きかけ、また利用者の増と地域福祉の充実のため自立支援センターの本格的利用を考えていく。「組織は人なり」の考えから働く職員の協調性の涵養、並びに働き甲斐のある職場として職場環境の充実に努めていく。

## 3. 施設設備

保育所・保育園については、施設の老朽化・遊具等の危険防止の面から随時更新を行なった。特に緑ヶ丘保育所では、定員増のため従前の事務室を保育室に変更した。反面、遊具関係では危険遊具の撤去が続き園児の運動機能・俊敏性の向上に資する遊具が少なくなったのでより充実を目指す。また、わかくさ保育園では学童保育のための設備の充実も引き続き実施した。

デイサービスセンター共楽苑については、先年、自立支援センターの改装を日本財団の助成を受けて実施したが、これのより効果的な利用を実施する。また、年来の課題である特浴施設、事務室棟、特浴施設棟の建設及びグループホーム建設を視野に入れた経営を心がける。

## 4. その他

わかくさ保育園については、益田市では小中学校の統廃合を再び打ち出し、論議されているが、地域に小・中学校が1校はあるべきとの基本に立ち、将来に亘って地域密着の保育園の存続の道を模索して行く。また緑ヶ丘保育所でも様々な交流の輪を広げ、より子どもがのびのびと育つことができるよう保育環境の整備に努力していく。

介護保険関係では、厳しい状況を打破するための方策を模索する一方、引き続き訪問介護・訪問入浴介護その他の各種事業について、利用者並びに利用家族の意見を聞き、より充実したサービスの提供を目指した。